

分野	文化	
<p>現状と課題(A欄)</p>	<p>「目指すべきまちの姿」に進んでいくための基本的な方向性など(C欄)</p>	
	<p>(基本的な取組の方向性)</p> <p>○観光や産業、まちづくり分野等と連携した文化・芸術の振興を図る。</p>	<p>(具体的な手段・方法、取組など)</p> <p>○庁内各課の事業のほか、地域団体等による事業との連携を含め、幅広い文化・芸術の取組を推進する。</p>
<p>(現基本構想の進捗検証・評価)</p> <p>○杉並区は文化人が多く、演劇や文化活動をする人たちが集まってくるまちであり、「天邪鬼」が住むまち、文化都市というイメージが強い。</p> <p>○杉並公会堂など、文化施設はある程度整っている。その意味でハードは十分であるが、多文化交流などのソフト面に課題がある。</p> <p>○外国人が増加しているにもかかわらず、多文化交流は進んでおらず、コミュニティの中で、仲間が仲間を呼んでいくような交流が重要。こうした中で、例えば地域の会議室は単なる貸館となっている。</p> <p>○多文化交流を促進するための場として、学校の役割は大切。子どもたちが高齢者や障害者、外国文化などについて深く知ったり、オペラ教室などの本物に触れる機会を提供したりすることで、正しい知識や感動が得られる。</p> <p>(今後の社会環境や区民生活・意識の変化等の新たな視点)</p> <p>○人生100年時代では、子どもたちは多様な人の存在や異文化の中で生きていくことになる。</p> <p>○コロナ禍でオンライン化が進んだが、設備が少なかった課題が浮き彫りとなった。</p> <p>○文化・芸術とは、自分が何なのかを問うたり、生きる喜びを感じられるものとして重要。</p>	<p>○文化・芸術をインターネット配信等ができる環境を整備する。</p>	<p>○区立集会施設等におけるICT設備のあり方を検討・具体化する。</p>
<p>目指すべきまちの姿(B欄)</p>	<p>○子どものころから多文化交流等ができる環境を整える。</p>	
	<p>○子どもが身近に文化・芸術に関わることができる取組を推進する。</p>	<p>○学校における多文化交流の取組を充実する。</p> <p>○子どもたちがさまざまな社会状況をより深く知ったり、正しい知識を得たりすることができるよう、より充実した機会(感動体験や本物に触れる体験など)の提供を図る。</p> <p>○地域団体等と連携して、区民が気軽に参加できる文化・芸術活動を広げる。</p>
<p>(目指すべきまちの姿)</p> <p>○文化・芸術を通して、人の創造性や表現力を育み、人々の心のつながりや多様性を尊重しあうことができるまち</p> <p>○子どもの頃からより充実した多文化交流や感動体験等が得られるまち</p> <p>○文化・芸術活動が盛んで、身近で気軽に参加、協働することができるまち</p> <p>(目指すべきまちの姿を設定した考え方など)</p> <p>○文化・芸術の振興は、人々の心を豊かにするだけでなく、来場者等による地域のにぎわい創出など、地域振興の側面からも重要な取組である。</p> <p>○区内在住外国人が増える中、差別や偏見につながらないよう、多文化交流等を通して正しい理解を広げ深めていく必要がある。</p> <p>○文化・芸術におけるICT活用を含め、誰もが身近で気軽に文化・芸術活動に関わることができる環境を整える必要がある。</p>		